

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0290100106		
法人名	社会福祉法人 青空会		
事業所名	グループホーム青空倶楽部 奥野館		
所在地	青森県青森市奥野2丁目27番10号		
自己評価作成日	令和2年10月1日	評価結果市町村受理日	令和3年3月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20-30		
訪問調査日	令和2年11月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

例年は年2回、家族参加の外出レクリエーションを開催している。夜には、職員と家族の懇親会を行い、日頃話せない情報交換の機会を設け、個別ケアの向上に繋げている。家族によっては認知症を正しく理解できていない方もおり、家族支援も考え説明するように心がけている。
 例年の秋祭りには、地域の方々に設置を手伝ってもらっている。互いの行事に参加する他に、庭の草花や山菜などを届けていただいたり、お庭を散歩していただく等、配慮していただいている。
 例年は中学生の職場体験学習や介護資格取得養成学校の実習を受け入れ、認知症についての理解や介護の仕事に興味をもっていただけるように努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

町内会に加入し、近所のラジオ体操に毎年参加する等、地域住民の一員となっている。ホーム主催の秋祭りは準備の段階から協力をいただいております、様々なイベントを通じて、地域との交流を図っている。職員は皆生き活きと働いており、連携が良く、ホームとしてのケアの方針が意思統一できている。利用者職員はまさに家族のような関係であり、居心地のいいホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作っている。また、その理念を踏まえて毎年ユニットの目標を立て、目に付く場所に掲示して日々実践している。	設立時からある理念は地域密着型サービスの役割を反映させたものであり、職員は常に理念を意識して、日々のサービス提供に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会のラジオ体操に毎年参加している。地域住民が、庭の草花や山菜を届けてくださったり、秋祭りには準備の時点から協力いただく等、地域と交流の機会を設けている。	毎年、町内のラジオ体操に参加している他、近所の方が山菜等を届けてくれる等、地域の一員として認識されている。また、ホームで主催する秋祭りには準備も含めて協力をいただいております。地域住民とは日常的に交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職場見学や職場体験、介護資格取得養成校等の実習受入れを積極的に行っている。地域には互いの行事参加を通じて、認知症の方の理解を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、サービスの実施状況や事業所の取組み等について、書面や電話などで報告しており、質問や意見を頂戴し、サービス向上に活かしている。	今年度は新型コロナウイルスの影響で開催できていないが、2ヶ月に1回郵送でやりとりで行っている。メンバーから運営について様々な意見をいただいております。ホームの今後のサービス向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に、地域包括支援センターの職員に書面や電話で参加していただき、情報交換を行っている。また、行政担当者には、状況や状態等を報告し、アドバイスを受けている。	コロナウイルスについての情報をいただいたり、わからない事があればその都度連絡しており、行政とは普段から課題解決に向けた関係の構築はできている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修に職員を派遣している。ホーム内で勉強会を開催し、全職員が再確認して理解を深める機会を設けている。気があったときには、その都度検討している。また、その状況を運営推進会議に報告している。	法人で研修委員会を設置しており、身体拘束について定期的に勉強会を実施している。職員全員が身体拘束の内容やその弊害を理解しており、身体拘束はしないという方針でケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関する研修に職員を派遣している。ホーム内で勉強会を開催し、全職員が再確認して理解を深める機会を設けている。気があったときには、その都度検討している。メンタルヘルスチェックを実施し、職員の精神的ストレスにも気配りしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修に職員を派遣している。ホーム内の勉強会で、全職員が再確認して理解を深める機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居及び解約の際には、契約書や重要事項説明書等を読み合わせをして、疑問点や不安な点がないか尋ねて、納得したうえで契約や解約の手続きを進めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書には、ホーム内の苦情受付担当の他に、行政や国保連の連絡先を明示している。玄関にご意見箱を設置し、意見や要望等を表出できる場を確保している。	職員は普段の会話の中から利用者の意見や不満を察するように努めている。また、運営推進会議の委員には利用者代表もおり、外部に意見を言える機会を設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、日々のミーティングや職員会議、個別面談の場で、要望や意見を聴取できるようにしている。代表者は、管理者からその要望や意見を聞く機会を設けており、反映できるように努めている。	月1回職員会議を行い、運営等に関して職員からの意見や提案をする機会を設けている。また、管理者は、日頃から職員からの意見を聞くようにしており、出された意見は、より良いホームの運営に反映できるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員の状況を把握しており、各人が希望するスキルアップに対する援助や、可能な限りの有給休暇消化の容認をしている。向上心を持って就労できるような職場環境と条件整備に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の力量や経験年数、資格取得を考慮し、法人内外の研修参加の機会を確保している。また、働きながら資格取得ができるように、長期間の研修受講の取り組みを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	多事業所との繋がりを大事にしており、研修会や交流会へ参加できるように配慮している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用の相談があった段階で、ご本人との面談や見学に来ていただき、心身の状態や抱えている課題、不安な点を聴取する機会を設けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用の相談があった段階で、ご本人との面談や事業所見学に来ていただき、心身の状態や抱えている課題、不安な点を聴取する機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談にいらした方から主訴を伺い、その時点で利用できるサービスやサービスを提供できる事業所の紹介等、情報提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入居者と共に過ごす日常生活の中で同じ時間を共有している。できることは行っていただき、共に協力して生活している関係を築いている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には、相談や報告をこまめに行っている。月次報告書や個別新聞を発行して情報共有し、意見やアイデアを頂戴している。離れた生活になっても家族の一員であり、入居者を共に支える一員であることを伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の面談や入居後の会話の中から、馴染みの人や場所等の把握に努めている。家族に限らずに、友人等にも気軽に来ていただけるようにしている。電話や手紙等も利用して対応している。	入居時に馴染みの人や場所について把握するようにしている。友人と一緒にランチを食べに外出する等、入居後も馴染みの関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の対人関係の把握に努めている。入居者が人間関係を円滑に生活を送れるように、職員が橋渡し役となって介入している。協力活動を通して、支え合う心が芽生えるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時に、サービス利用終了後も随時相談を受けていることを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの話す言葉や行動、また表情から思いを汲み取るように努めている。その都度、申し送りや会議で検討し、対応している。	職員は利用者の言動や表情等から思いや意向を把握するように努めている。また、家族や知人からも情報収集する等、職員全員で利用者の視点に立って検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前面談で、生活歴や馴染みの習慣、利用していたサービス等の情報収集を行って把握している。古くからの知人等が面会に来られた際にも、情報収集するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の事前面談で、既往歴や心身の状態等の情報収集を行い、できることやできないことの把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族からは面会時やカンファレンス時を利用して、また、入居者からは日常生活の中から意見を吸い上げたりして、職員会議で話し合いをして介護計画に反映させるように配慮している。	利用者及び家族や関係者からの意見や気づきを反映させた介護計画を作成している。定期的に見直しを行っている他に、身体状況や希望に変化があった場合はその都度変更しており、現状に即した計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に記録し、変化や対応方法によってどのような結果が生まれたかを記載するようにしており、より良いケアの追及に努めている。日誌や申し送りで、全職員が周知できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	往診や訪問看護、訪問歯科、定期診療以外にも必要に応じて対応できるようにしている。家族や入居者の希望があれば、医療機関と連携して看取りに対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事に町内会の方々に参加していただいている。町内の行事に参加する機会があり、地域とのつながりを持つことができおり、安全面の配慮も受けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望するかかりつけ医や協力医療機関への通院や往診で、適切な医療を受けられるよう支援している。	入居時にかかりつけ医を確認し、希望する医療機関を受診できるよう支援している。希望により往診も受けられる他、眼科等の専門医への通院もホームで対応しており、利用者が適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約しており、月2回の定期訪問により、日常の健康管理や医療連携の支援を受けている。また、24時間の相談も可能であり、いつでも相談できる体制となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の心身の状況を伝達し、安全安心して治療が受けられるように支援している。入院先の医師や看護師、ケースワーカーと情報交換を密に行い、早期にホームでの生活が再開できるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の対応を家族に十分に説明している。家族や医師、ホーム間で話し合う場を設けている。双方の合意と納得が得られて希望があれば、看取り契約書を交わして看取り計画書を作成し、看取り対応を行っている。	協力医療機関との連携により看取りの体制はできている。重度化した場合に備えて、本人や家族と随時話し合いを行っており、医療機関も含めて看取りについての意思統一を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が救急救命の講習を受講できるように、法人独自の勉強会を開催して学ぶ機会を設けている。急変時におけるマニュアルを整備し、いつでも対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災の避難訓練は、町内の方の意見も頂戴しながら行っている。水災害時の対応マニュアルも作成しており、避難訓練を実施している。	年2回、地域住民や消防署の協力を得て避難訓練を実施している。災害時に備えて非常用の食糧等の物品を用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者と接する際には、入居者のその瞬間の状況に合わせた言葉がけと自尊心や羞恥心に配慮した対応と言葉がけを心掛けている。	利用者は基本的に「さん」付けで呼んでいる。言動を否定したりせず、自尊心や羞恥心に配慮した対応を常に心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活で思いや希望を聴取しやすい雰囲気作りや働きかけを心掛けている。口頭での意思表示が困難な利用者には、身振りや目線、表情から意思を汲み取るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者と職員との間で交わされる日々のコミュニケーションの中で、今何をしたいのかを探り出し、生活に反映できるように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居時には、以前から着用していた衣類を持参していただいている。不足時は、利用者と購入に出かけたり家族に依頼している。入居者の希望を伺い、対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者がおいしく安全に摂取できるように、一人ひとりに合わせた食事形態や量を提供している。職員と会話を楽しみながら食事をしており、調理や盛り付け、片付けを入居者と協力して行うようにしている。	調理はホームで行っており、利用者の身体状況や好みに合わせて刻みやトロミを付ける等で対応している。利用者も調理の下ごしらえを手伝う等、準備の時間を含めて食事の時間を楽しく過ごせるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は外部の栄養士が作成している。一人ひとりの状態に合わせて、食形態や量、内容を変えて対応している。水分摂取量が不足しないよう、その方に合わせた提供飲料を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性は理解しており、一人ひとりの状態に合わせて、毎食後に声掛けや介助にて実施している。歯磨きやうがいが困難な入居者には、スポンジブラシや洗浄剤などを使用し、清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄介助が必要な入居者には、排泄チェック表をつけることにより、排泄のリズムを把握しトイレでの排泄が行えるように支援している。また、一人ひとりに合わせた尿取りパットを使用することで、汚染が減少し衛生的に過ごすことができている。	排泄チェック表を活用している。トイレ誘導が必要な方には、羞恥心やプライバシーに配慮した支援を行っている。また、随時、おむつの使用を継続するか検討する機会を設けており、排泄の自立に向けた支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は、便秘の要因や影響を理解している。食物繊維の摂取や十分な水分摂取、運動量等、一人ひとりに応じた自然排便を促すような取り組みを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	入浴日は決めておらず、入浴チェック表を付け週2回以上は入浴していただけるよう声掛けを行っている。入浴拒否があった場合は、無理にすすめず、時間を置いて再度声掛けを行っている。	ホームでは週2回入浴できるようにしており、利用者のその日の体調や状況に合わせて入浴できるようにしている。また、希望があれば同性介助で対応する等、利用者の羞恥心にも配慮した支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間に不眠状態が見られる入居者には、職員と談話したり飲み物を提供するなどして入眠しやすくなるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬の情報はファイリングしており、いつでも閲覧できるようにしている。処方変更があった際には、往診結果に記載し全職員が周知できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活で行ってきた習慣や趣味等を尊重し、継続して行えるよう支援している。日常生活では、各々の得意部分を発揮できる場面ができるように配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天候や心身の状態を考慮し、花の水やりや散歩、買物、ドライブ等の外出の機会を設けている。家族との外出の際には、車椅子の貸し出しを行っている。観桜会・りんご狩り等の季節の行事には、家族の協力も得て出かけている。	現在はコロナ禍により外出自粛しているが、天気の良い日は花の水やりやドライブに出かける等、安全面に配慮しながらできる限り気分転換できて、利用者に喜んでもらえるよう取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の一人ひとりの力量や状況に合わせて、支払いの支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望により、電話を使用している。手紙やハガキが届いた場合は、返信の支援をしている。家族や友人に、年賀状等を出せるよう代筆等の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内には季節感が感じられる装飾や入居者が作成した作品を掲示している。リビングや居室の照明、温度、湿度は、こまめに調整している。	ホールは広く作られており、利用者は温度や湿度の管理された快適な環境の中で、それぞれが思い思いの場所でゆったりと寛いで過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の精神状態等を配慮しながら、居場所を工夫している。気の合う入居者同士で過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた家具類を持ち込んでいただくようにしており、入居者の希望を伺いながら配置している。	ホームでは、入居時に馴染みの物を持ってきてもらうように働きかけている。利用者は使い慣れた家具や位牌等、それぞれ思い入れのある物を持ってきており、穏やかに居心地よく過ごせるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手すりを配置し、残存機能を生かした生活を送れるようにしている。トイレ等の掲示を目線の高さに大きく表示したり、目立つ色にする等の配慮をしている。		